

実り豊かな古代出雲の研修

「生涯学習応援団」主催の今年度の研修地は古代出雲だ。案内によると 11 月 5 日～7 日の日程で「青銅器の国・古代出雲の史跡や文化を訪ねる」とある。見学予定の遺跡は、「荒神谷遺跡」「西谷墳墓群」「加茂岩倉遺跡」「妻木晩田遺跡」どれも現地を一刻も早く見たいところだ。

個人的には、ここ数年弥生時代の墳丘墓から出現期の古墳あたりを自己の研究テーマ枠としてきたので、今回、西谷墳墓群の四隅突出型墳丘墓を直接見る事が出来るので ワクワク感でいっぱいだ。

おまけに、出雲大社の正式参拝、松江の主な観光もプラスされ、魅力的なプログラムだ。

はやる気持ちもありやや早めに空港に着いたが、既に何人か来ていた。総勢 19 名の出発、みな同じ思いだろう。

☆ ワオ！ 538本の銅剣、隣に銅鐸と銅矛が埋納！

出雲空港には、現地の研究者として同行される内田律雄先生が出迎えてくれた。内田先生は開口一番「大塚先生からは、ご丁寧なお手紙」「上野先生からよろしくとのお電話」があったそうだ。行き届いたご配慮に参加者一同あらためて感謝した。

車中、荒神谷遺跡について内田先生よりオリエンテーションがあった。1984・85年に斐川町神庭荒神谷遺跡で多数の青銅器群が相次いで発見された。道路建設に先立つ発掘調査で 358 本の銅剣が出土したというのだ。すべて刃先を互い違いに四列に整然と並べてあった。更に翌年銅矛 16 本、銅鐸 6 点が鱗を立てた状態で埋納されてたというのだ。

現地は、仏経山（神名火山）を望む神庭西谷で「何でこんな場所に？」と一瞬思ったが、前方の神名火山を仰ぐ聖なる地であったような気がする。

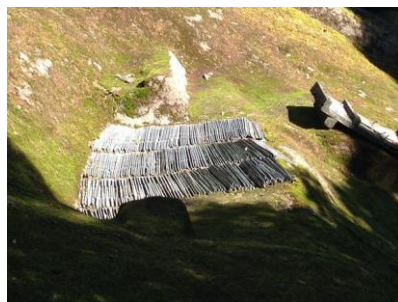
内田先生は、「出雲型銅剣という考古学者もいるが、銅剣は出雲で製作された可能性が高い」と言われた。

同所にある荒神谷博物館で発掘の状況を確認、午後には古代出雲歴史博物館で見事な本物に接することが出来、その素晴らしさに驚嘆した。

埋納の理由については、諸説あるようだが今後の研究を待ちたい。



斜面に整然と埋納



銅剣の出土状況を再現



展望台より遺跡の説明

☆ まか不思議—四隅突出型墳丘墓に直面

今回の研修の目玉の一つだ。弥生時代には、各地域の首長が独特の墳丘墓を造営していたが、島根から日本海側にかけて、四隅突出型墳丘墓という独特のお墓が造営された。

出雲弥生の森博物館長の渡辺貞幸先生から明快な解説があった。展示も工夫され分かりやすかった。西谷墳墓群は私自身の研究テーマとの関係で、是非見たいと思っていたので実現できて嬉しかった。しかし、謎は残る。どうしてこの地の首長達は四隅にこだわるのか。近畿から関東にかけて四隅陸橋型方形周溝墓があるが、四隅に何か意味が隠されているのか。弥生時代の墓制観に何か関わりがあるのか。妙な疑問にとらわれながら見ていた。

王達はこれらユニークな墳丘墓を造って民達を従えたのであろう。



最大級の西谷3号墳の説明



3号墳上部から見た突出部



3号墳から見た2号墳
内部に展示室

☆ これまた吃驚！ 39個の銅鐸発見される—加茂岩倉遺跡。

荒神谷遺跡の山一つ向こうの加茂町の谷奥で、これも農道拡張工事中に39個の大量の銅鐸が発見された。内田先生の解説によると、ショベルカーで掘り上げたため、全体がどのように埋納されていたか分からなくなってしまった。しかし、一カ所だけ埋納の状態がわかるものが残っていた。私も確認できたが、やはり鱗を上にしてきちんと埋められてあった。ここの銅鐸の興味深いのは、「入り子」の状態であった。内田先生の話では、こういう例は他にないらしい。

それにしてもこういうところに何故こういう形で埋納したのだろう。昨日訪れた古代出雲歴史博物館でこれらの銅鐸が国宝になっているのを拝見したが、現場の「加茂岩倉遺跡ガイダンス」で細かな文様をみる事が出来た。「×」の刻印が、荒神谷遺跡の銅剣にも見られることから、両遺跡に関係があるかも知れない。



ガイダンスから遺跡を望む



発掘状況の遺跡復元を説明



「入り子」状態の銅鐸

☆ えっ？ 吉野ヶ里と並ぶ広大な遺跡—妻木晩田遺跡

この遺跡は、出雲からバスで約50分かかる鳥取県にある遺跡だ。広大な遺跡でまだ発掘も10%程度でまだまだ新しい発見がありそうだ。

高台にある遺跡で、天気の良い日には対馬が見えるという。朝鮮との民間貿易もあったのだろう。

大塚先生おすすめの見学遺跡とのこと。地元のガイドさんの案内で弥生時代の竪穴住居跡を巡り歩いた。環濠もあったが小さいらしい。高床式建物の役割についてガイドさん独自の見解が出され面白かったが、それを裏付ける土器等が出ていないらしい。

興味深かったのは、小規模の四隅突出型墳丘墓があったことだ。ガイドさんの話では、小さいながらも西谷墳墓群より古いという。



洞ノ原地区からの眺め
美保湾の広がり



洞ノ原地区の四隅突出型墳丘墓



遺構保存展示館の内部

☆ いいものを観た！ 八雲立つ風土記の丘

ここの展示学習館の建物形体は、前方後方墳型をしている。室内は縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代の数々の遺物が展示されているが、何と言っても目を惹くのが、岡田山一号墳より出土したと言われる「額田部臣」銘文入太刀などの展示だ。銀象嵌である。ヤマトとのつながりが偲ばれる。この太刀のほか様々遺物が出土した。すぐ隣に円墳があったが、未調査とのことだ。きっといいものが入っているに違いない。



展示学習館



銘文入り太刀の説明板



岡田山1号墳

☆ 白眉の体験 出雲大社正式参拝！

今回の研修では、遺跡探訪の他に幾つかの文化財施設訪問が組まれた、何と言ってもその白眉は出雲大社の正式参拝だ。事前に菓子と茶を頂き、身を清め境内に入る。作法に則り参拝し、権宮司千家和比古様より講話を戴く。話を聴いているうちにこの方は考古学者ではないかと思った。出雲大社の歴史、建物の構造と巨大な柱穴の話、時折大塚先生の話も出る。新知識を得ながら、滅多に

出来ない体験をさせていただいた。

折衝された関係者の皆様に感謝しながら聴いていた



瑞垣内の奥に御本殿



八足門前に巨大柱跡の表示



出雲大社の拝殿

☆ 夕食時にもとっておきの話が・・・

初日の夕食時にも、参加者の皆様から考古学についての熱い思いが語られたが、二日目の夕食時には講師の内田先生を囲んで楽しい一時がもたれた。

歴史には表があり、裏もある。裏の面にも目を注ぐことが大事だ。内田先生は事例をひきながら話された。歴史事象をよく視て、考え、判断しなければならないと思った。

天候にも恵まれ実り豊かな研修旅行であったが、事前の準備、当日の手配、様々なご配慮をいただいた種田幹事さん、高橋事務局長さんには心から感謝しています。



掘り出された宇豆柱



平安時代の御本殿の復元模型



荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡出土の国宝青銅器

<古代出雲歴史博物館>にて展示



出雲弥生の森博物館前にて

11月8日 研修から帰って、
大木 英雄 記